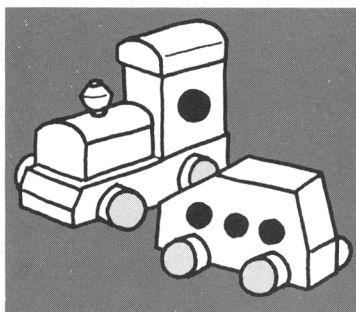


インターネットが開く広い世界

丸山知子

札幌医科大学保健医療学部看護学科教授

毎日の新聞やテレビにインターネットという言葉が出てこない日はない昨今です。教育界においても小学校から大学までその利用範囲は広く、多様に用いられています。今やインターネットによって世界が大きく変化しています。なぜこれほど注目され、活用されているかは、インターネットで何ができるのかを調べればわかります。研究分野からショッピングまで驚くほど多様な世界がインターネットによって開かれ、世界規模のダイナミックな社会を構成しています。私はまだそのほんの一部しか利用していませんが、世界の情報をリアルタイムで得ることができたり、世界の看護の人々との交流が自分の部屋で居ながらにしてできるのですから、私にとっては驚きの連続です。



私たちの看護学科では、平成6年に情報処理の教員を中心にインターネットの組織づくりを始め、今年で3年になります。3年前は看護界では一部の病院でのネットワークシステムが報告される程度でしたし、社会でも一部企業や大学で活用される程度だったと思います。ですから、いかに急速に日本のみならず、世界中がインターネットを活用するようになったかということがわかります。現在、本学科ではホームページを開き、大学生や病院のナース、教育関係者など、いろいろな人達と電子メールを通して交流しています。当看護学科のインターネットに関する紹介は、『看護教育(35巻13号)』や『看護(48巻5号)』『Nursing Today(11巻5号)』に報告しています。

私自身は、コンピュータやインターネットに使われている横文字の理解に悩まされていますが、それも毎日インターネットの世界に入り、慣れることによって乗り越えられそうですし、すでにインターネットの便利さ、効率のよさや楽しみなどは体験しています。現在、電子メールで国内はもとより海外へ連絡をしたり、また、図書館に行かなくても Medline で 30 年間の医学文献を自分のコン

ピュータを通して検索できます。さらに、www を開いて新聞を読んだり、世界の看護の情報を読んだりしています。このように、自分の机から世界中の最新情報に触れ、会ったことのない人々との交流ができるなんて夢のように思いましたが、今、若い先生方の刺激を受けながら、その夢も実現しつつあ

ります。助産婦グループ「ジモン」もホームページを開設しているようですが、これから大いにインターネットを活用し、全国、さらに世界の助産婦たちとのネットワークを広げ、社会の助産婦の位置づけを強めようではありませんか。

第24回 ICM オスロ大会に参加し、アメリカの助産婦との再会、新しい助産婦との出会いがあり、早速 E-mail での連絡を約束しました。以前より大変距離が近くなったことを感じました。

インターネットのトンネルを通過すると、そこには国境のない広大な世界が開かれているという気がします。これからの活動にインターネットは欠かせない資源になることを実感する今日この頃です。